愛板
愛知県板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋市昭和区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

「基幹技能者」養成研修会

中板協主催

平成十四年九月二十二～二十三日
JRツインタワー三十二階積水化学工業㈱
中部支社・会議室

平成七年四月に当時の建設省が建設産業政策大綱の中で、今後、建設労働需給が切迫する中「良い物を安く」提供するために基幹的技能者の人材育成が今まで以上に重要性を増すことから、基幹技能者についての「技能開発計画」の策定や技能者の教育システムづくり等により技能の高度化に対応した技能者の育成に対して支援を行うとともに技能の公的評価制度づくりを行うと発表した。

基幹技能者の必要性については建設コストの低減、生産性の向上、品質・安全の確保といった近年の建設産業の課題に答えるために「仕事の段取り、とりまとめ」といった作業管理の分野が重要とされる。

全板連では平成一年から建築板金業の将来ビジョン策定に入り「労務提供型」から自立した「責任施工遂行型」への体質あるいは構造改善の指針を示し平成七年の第三次ビジョンで完成した。

平成八年七月の「基幹技能者の確保・育成・活用に関する基本指針」を受けて全板連も平成九年七月に基幹技能者育成のための「技能開発計画」の策定に取り組んだ。

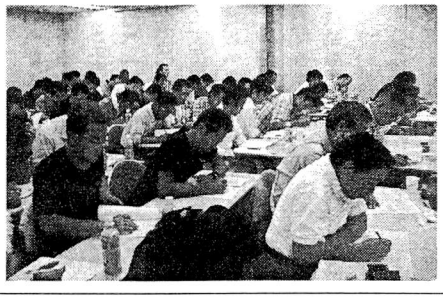
▶高柳講師（中央）と講習状況

全板連では平成十一年十一月より基幹技能者を育成すべく静岡県富士宮市に開校した「富士教育訓練センター」において指導者養成を行い、全板七ブロックから五十一名の講師資格者を認定した。

この講師資格者がブロックごとの「基幹技能者研修」で講師として活躍、全国に千名の「基幹技能者」を育成する。

「基幹技能者」とは熟練の技を持った技能者でそれに加えて施工管理、品質管理、原価管理、安全管理などのマネジメントができ、技術的能力も保有し現場の責任施工を担える優秀な技能者である。

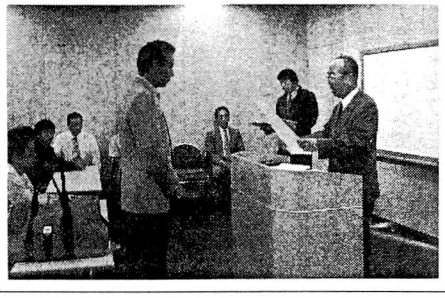
中部ブロックは中部板金工業組合協議会が主催して今回第一回研修会を行い愛知・岐阜・三重の東海三県から受講資格者六十五名の受講者で、九月二十二・二十三日の二日間、JRツインタワー三十二階の積水化学工業㈱中部支社会議室で開催した。


▶論文問題に取り組む受講者

受講には次の資格を取得していることが条件である。

Ⅰ、建築板金一級技能士
Ⅱ、職長教育講習修了者
Ⅲ、アーク溶接作業主任者
Ⅳ、玉掛技能講習修了者
Ⅴ、高所作業車運転技能講習修了者

と五つの資格講習修了者でないと受講できないが特例として1級技能士以外の資格は一年以内に講習を受講することを条件で今回の受講を認め認定証は仮の認定証で、すべての条件を満たした後に本認定証が交付される。


▶認定証を手渡す中板協 竹野会長

二十二日の講習日には遠方からの受講者も多く、岐阜県板では下呂とか白鳥町からの受講者が前日から泊まり込みで二十二名が受講した。

三重県板では九名が遠くは伊勢浜島町から参加、受講者平均年齢が三十五才と建設現場ではすでに職長として板金施工に従事している方たち。

愛知県板は三十四名が研修に参加、中でも東三ブロックからの受講者が十名と多かった。

全受講者は三十才代が最も多く平均年齢は三十八・五才で今後基幹技能者として責任施工を実践して工事現場で特に重要な役割を担い、専門工事業者である建築板金業界のレベルアップにも十分貢献できる方たちである。

授業は二日間とも午前九時から午後五時まで休憩をはさんでみっちり勉強した。二十三日は講義終了後一時間のペーパーテストが行われた。質疑応答のあと、意見発表があり十一名の受講者が感想や基幹技能者の抱負を述べた。

当日は愛知県板の事務局が2名と講師が高柳委員長と松代氏、鷲見の三名。岐阜県板から橋本講師。三重県板からは浅野・伊藤両講師が。静岡県板から宮崎講師と富山県板から芦崎講師また福井県板からは青山講師が出席された。

認定証は各県板の代表に中板協竹野会長から授与されたが約半数となる三十三名の受講者が何らかの資格が未受講であるため仮認定証の授与となった。

この方たちは早急に残りの資格を受講して立派な認定証を取得されたい。　鷲見

あいち技能プラザ2002開催のご案内

技能士による物づくりの楽しさを味わっていただき、技能に対する理解を深めていただくため「あいち技能プラザ」を開催いたします。

親子揃って一日技能士になろう。

＊開催日
11月9日(土)・10日(日)

＊会場
名古屋市千種区吹上町
名古屋市中小企業振興会館　吹上ホール

第23回全板連・日板協青年部 あすなろ研究会に参加

9月8日(日)・9日(月)の両日、西部ブロックの滋賀県大津市「大津プリンスホテル」にて、午後2時より全板連・日板協青年部主催の「あすなろ研究会」が、メインテーマを〈あしたに挑戦!〉と掲げ、これまでの悲観的なとらえ方で受け身にならず前向きかつ挑戦していく姿勢を方針とした、サブテーマを〈未来を拓く組合づくりの創造〉と題して開催された。

北は、北海道より南は九州熊本から206名の参加があった。

愛知県は、本田部長をはじめ総勢9名が参加し、8日の朝、名古屋駅新幹線口「メディヤワン」前に集合し、部長が運転するマイクロバスで現地に向かった。

開講の辞の後、全板連・日板協青年部部長河田雅彦氏の挨拶では、「各自がどのように組織を活用していくのか?」、「全板連・日板協親組合が、また青年部が今後どのような方向に向かっていくのか?」と挨拶した。続いて来賓紹介・挨拶では、全板連理事長勝又貞治氏・西部ブロック会長脇野幸一氏・青年部担当理事横瀬進一氏より挨拶があった。

休憩の後、二講演に入った。最初に『全板連・日板協について(概要・活動内容など日板協を中心に)』と題して、全板連副理事長・日板協副会長の脇野幸一氏より話を聞いた。

設立年月日は昭和45年12月17日、目的は『板金加工業』と『板金工事業』の進歩発展と『国民の住生活の改善』への寄与である。

概要については、大臣の認可(昭和57年、通産・建設両大臣)を得て、全国建築板金業界の業種的地位について『板金加工業界』という規定に『板金施工業界』でもあるという規定を加え、『自立した責任施工遂行型の金属系建築外装工事業界』を目指す構造改革事業の展開を主導している。

現在取り組んでいる事業は、責任施工制度・リフォーム事業・太陽光発電システム、経営戦略に関する調査研究を第一委員会から第三委員会に分かれて、各委員会が各分野に取り組んでいる。

今後取り組んでいく内容は、『責任施工・基幹技能者の遂行』、『知的な財産の確保』、全国的に板金業者が持っている成型機・工具等の活用(他地域への貸出)である。

休憩後、全板連・日板協事務局長柴田英行氏から、『日板協の具体的な活動内容など』について話を聞いた。

公共事業物件を地元で施工管理するにはまず、地元の組合が建設業許可を取得し、設計会社が決まる前に、建築板金業振興議員連盟加入議員と一緒に官庁に出向いて、地元の組合が施工管理(責任施工保証制度適用)することを提言するという話で、すでに十数県の組合が実行しているそうです。

懇親会では、同県の参加者が隣どうしにならず他県の参加者が隣に座って他県との交流を深めていた。

翌9日は、朝からグループに別れての分科会討論で始まり、討論内容は前日の講演内容をふまえた、メインテーマの〈あしたに挑戦!〉サブテーマの〈未来を拓く組合づくりの創造〉という漠然とした内容でした。

分科会討論が終わり、全体発表では分科会でまとめた意見の発表があり、どのグループも「結論は出ません」という発表でしたが、『結論は出ない』といったほうがよい分科会討論でした。

閉講式では、青年部部長挨拶、来賓挨拶、総評・講評と進み、『第25回全国建築板金競技大会』についての発表があり、閉講の辞で午後12時40分終了し帰路についた。

『第25回全国建築板金競技大会』について

◇開催期日

平成15年2月8日(土)9日(日)

◇開催場所

富士教育訓練センター

静夫県富士宮市根原

◇課　題

技能競技の部(ZIC)

花　器

建築技術の部(NYAC)

平屋木造建築の一般住宅のリフォーム物件

明細については、10月中旬ごろ各支部の青年部長に聞いてください。

岡崎　宇野

厚生委員会報告 (決意を新たに挑戦)

本会の開催に当たっては七月に予定していたが、台風六号の襲来によってやむを得ず延期となり、去る九月十三日(金)会議室三Fにて開催。

冒頭、村上理事長および斎藤副理事長の挨拶を頂き、今回の開催は県板にとって非常に重要な審議課題なので充分な検討を求めたいとの談。

沼澤厚生委員長の議事進行により審議に入る。

☆審議事項

一、県板共済の加入促進

二、全板国保への加入促進

三、全板国民年金基金への加入促進

四、その他

◎県板共済制度

諸般の経済事情により加入者の減少が著しく、歯止めが必要とされている今日、賦課金の値上げの問題や、県板独自の建物のリフォームも再び浮上しているとの段。これらの現状を認識し、新たな収入源の確保に最善の方策を求め、重点的に勧誘する必要があるのではないかとの結論。即ち、共済制度の充実こそ、組合員の負担を軽減すべき最善の施策と言えよう。現在の推移では加入者の減少が、今後の継続に大きな支障を来たせば、金融監督庁の通達により行政指導があり、取り消される可能性も充分にあり得るとの事である。

今回の審議に於いて未加入者には、「一事業所一口加入」の推進と、ご理解を求めながら勧誘しなければとの結論に達し、未加入者の発掘にリストアップを図り、それぞれのブロック長並びに支部長・厚生委員に勧誘を委任し、今一度未加入者のご理解を頂き促進を図り、目標達成が五〇%以上の成果を期待して止まない、決意を新たに委員会の結論に至った、吉報を待つ次第。

◎全板国民健康保険

加入促進に関して、異業種や市町村の国保に加入している方を再び呼び起こし、全板の国保への加入勧奨と説得作戦を願って止まない。

☆報告事項

給付関係で改正点を報告致します。先ず傷病手当金の給付では、一日四、〇〇〇×一八〇日を限度として改正され、

3頁へつづく

2頁のつづき

（五年間）の範囲で、更に家族五人目からは保険料が免除となっているので安心。糖尿病郵送検査（無料）を新たに実施。対象年齢は、四十歳以上五十九歳までの組合員と家族。早期発見で健康保持を。是非受診される事をお勧めしたい。

＊「十月一日から改正」

国民健康保険制度・老人保健制度のご案内。

イ、三才未満の乳幼児の医療費の負担が二割。

ロ、高額療養費の自己負担が一部変更がある。

ハ、老人保健制度の対象となる年齢が、七十歳から七十五歳にかわる。

ニ、七十歳以上の高齢者の医療費の負担が一割又は二割になる。

◇詳細は国保愛知支部へ

＊全板国民年金基金へ

の加入促進について、再度組合員への説得により精力的に勧誘を奨励し、組合員の老後安定を図られるよう、継続的に活動を続け、寄与したい。審議されたが総べて全員一致にて承認された。

◇連絡先は次の通り。

フリーダイヤルは、

〇一二〇－三四－一一六五

＊その他

ガン保険の資料請求を新聞発送時に発送するので、組合員への配付を依頼したく、宜しくお願いを申し上げたい。

以上の通り報告まで。

沼澤

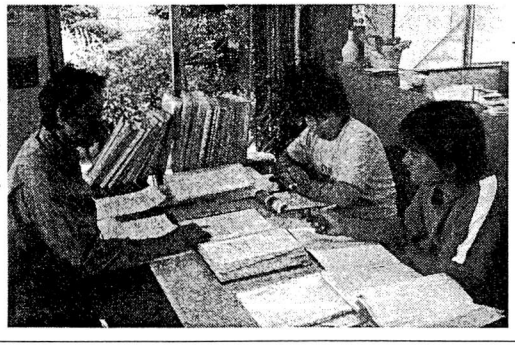
㈲日豊製作所 ISOを取得

この度、豊川市の㈲日豊製作所（原田重夫代表取締役社長）が、愛知県内の建築板金業者では初めてISO9001を取得した。

営業戦略の一つとして取得に意欲を持ち「社内の総合的なレベルアップ・従業員教育・営業力の強化・職人のやる気と意識の向上になる」と原田社長。又、ISOを取得する事により、会社の社会的信用度がアップする事や、ISOという看板のブランド効果などが生じて来る事も確かであろう。

取得にあたり、一番苦労し大変な事は〝マニュアルの作成〟だそうで、基本マニュアルの質問を完全に理解・把握し、自社独自のマニュアルを作成しなければならなく、その作業に相当な時間を要したそうである。又、取得後も、そのマニュアルに沿った経営が必要であり、年2回の内部監査、年1回の審査登録センターの監査と、今後も、大変な努力と労力を要する。

▶原田社長（左）と息子さんの忠則専務



▶内部監査状況

取得に向け準備しはじめてから今回の取得までに約1年、気になる費用だが、審査申請には100万～120万・その他にコンサルタント料が200万～300万、今後も毎年、審査登録センターの監査費用がかかる。

ISOは大企業だけでなく最近では中小・零細業者まで取得する動きが見られる。

〝仕事がない〟〝請からない〟と嘆くばかりでなく、ISOに限らず、何か前向きな行動を起こさなければならない事は確かであろう。

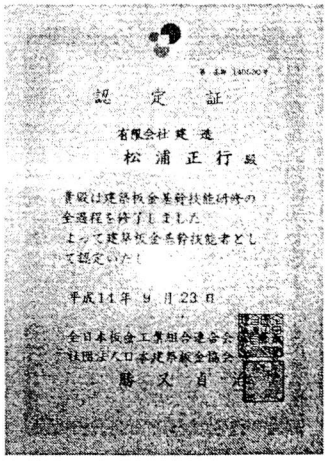
東三　松浦

基幹技能者養成研修会を受講して

基幹技能者って何？　一級技能士、アーク溶接、玉掛、高所作業車、職長・安全衛生責任者、以上の免許・資格を持ち、35,000円の受講料を支払えば誰でも受講できる。誠にお粗末な話であるがその程度の気持ちで申込み、受講会場へ。

席に着き、山の様に積まれたテキスト・資料の量に驚いた。開講式が始まり講習カリキュラムを説明され、又々驚く。2日間みっちりに組まれたスケジュール、内容も板金だけでなく建築全般に至り、最後にはペーパーテストまである。これは大変と気持ちを入れ替え、講義に望んだものの、難しい内容になるとチンプンカンプン。特に昼食後は睡魔と戦いながら、何とか2日間の研修を終える事ができた。

全般を通して、研修の内容や量を考えると、もう少し時間が欲しく思われた。



第 [illegible]

認定証

有限会社 建造
松浦正行 殿

貴殿は建築板金基幹技能研修の
全過程を修了しました
よって建築板金基幹技能者として
認定いたし

平成14年9月23日

全日本板金工業組合連合会
社団法人日本建築板金協会
勝又貞治

ただ基幹技能者とは〝工事現場の実情に通じ、かつ、技術者の技術的な指示を十分に理解でき実際の施工の実情に応じた形で現場の技能者を指揮し、統率していくというリーダーシップをとる能力のある者〟といった像は理解できた。

今後は、今までの自分に足らなかった事を勉強し、取り込み、現場での上級職長、基幹技能者として日々努力して行きたい。

尚、今回の研修は特別措置として全資格がなくても受講ができたが、足らない資格を早く取得しないと立派な認定証は貰えません。

東三　松浦

全板国保愛知県支部 愛知県板金工業組合 共催
尾張板金連合ボーリング大会

九月八日(日)、豊山町のわくわくボウルにて尾張連合ボーリング大会が開催された。

尾張十支部の組合員、従業員、家族等、総勢一一三名が参加し、午前十時より尾張連合会長の細野清氏の挨拶、そして始球式によってゲームスタート。一斉にフロアレーンが賑やかになった。

ルールは、例年どおり二ゲームのトータルによって各自が順位を競う。

また、自分も含め、手が大きい方が多いため、自分にあったボールを探すのに苦労する人が目立っていた。中にはマイボール持参で参加の方もみえた。

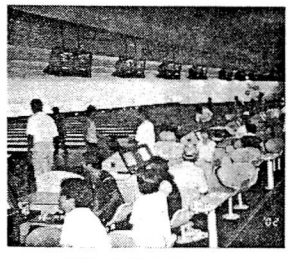
約一時間半程ですべての方がゲームを終え、ミーティングルームで表彰式が行われた。

上位十名に特別賞、そして均等に賞があたるよう飛び賞として順位の末尾が〇・五番の方に景品が手渡された。

最後に、全員に参加賞が手渡され、楽しい一日を過ごして、皆、帰路についた。

優勝　神田勝義(一宮)(365)(371)スコア
二位　渡辺和広(一宮)
三位　井上茂喜(春日井)(357)
(敬称略)　猪飼

▲上位3名


▲楽しむ組合員の方々

リフォーム（その5）

高級志向・ブランド・見栄・センス、類似点をならべました。動物・植物は皆他人より立派で強く・美しく、中身と外観にこだわりをもって生きています。

色・大きさ・広さ・形（長さ・高さ・形状……）・装飾等、長い間に進化したり劣化したり環境にあわせて変わります。今の住宅環境に重ね合わせますと、動植物と同じく丈夫で立派で美しい建物にしたいのです。

住宅展示場に行きますと、まさに丈夫で美しいこんな住宅に住みたくなります。

〝新築そっくりさん〟と言うリフォームメーカーや耐震強化住宅があります。小判鮫ではありませんが、がんばっている所にあやかるか「高級志向」の今、雨樋は大型角樋が主流になってきました。ステンレス雨樋もよく付けられます。雨樋の住宅費用のグレードを高く設計の段階に取り入れ、建物の高級感を引き立てています。また全国の鉄鋼二次メーカー・卸問屋・商社などが主体になってファインスチール普及会を作り、「きれい・つよい・やさしい」をテーマに宣伝活動を展開しはじめました。「ファインスチール」とは先端技術から生まれた新しい屋根材で、一般住宅から大型店舗、公共建築まで、軽く耐震に良く地球環境に優しくリサイクルができメンテナンスも安心です。

西・鈴木

9月各支部の動き

千種支部
14日　支部三役会　3名

東北支部
21・22日　研修旅行　21名
伊勢・志摩・賢島

中村支部
17日　定例会　12名

西　支部
26日　例会　9名

中　支部
14日　定例会　7名

昭和支部
9日　例会　14名
・尾張名古屋職人展
・保証制度
・支部研修会

熱田南支部
19日　定例会

緑　支部
21日　中間集会

名古屋板金連合会
19日　支部長会　12名
・尾張名古屋職人展
・県板新年会打合せ

尾張板金連合会
8日　ボーリング大会

春日井支部
7日　支部定例会　13名
25日　支部役員会　4名

津島支部
5日　定例会　8名

犬山支部
15日　例会　全員

岩倉支部
12日　月例会
・中部国際空港視察

一宮支部
22日　青年部家族親睦会　30名

小牧支部
8日　支部会合　15名

西三板金連合会
26日　役員会　35名
・11月7日総会
・県板各委員会報告

岡崎支部
28日　支部役員会
・50周年事業・記念誌作成について
・保証制度のPR
・基幹技能講習・職長教育について
・県板共済加入促進
・西三板金連合会の事業

碧南支部
23日　支部三役会　3名
18日　青年部定例会
27日　集団検診　22名

豊田支部
14日　第6回役員・班長会　14名

西尾支部
11日　支部役員会　18名

知多支部
9・10・11日　玉掛技能講習会　青年部　4名
15日　工具機械等勉強会㈱イリノ　青年部7名

東三支部
4日　定例会　25名
18日　臨時役員会　8名
25日　役員会　6名
28日　青年部ボーリング大会　14名

編集後記

「機関紙」

個人や団体がその主張・活動を知らせるために出す新聞と言われる。

「愛板」の場合愛知県板が行う事業とか講習会・研修会を組合員に知らせるための広報活動や、開催された講習会やイベントの成果を発表して組合員に知らせるための新聞が機関紙の役目であると思う。

行事を知らせるためであることから、一日でも早く開催を知らせる事により参加者を募ったり、予定を立てるには効果があるので本来組合員全員に直接送付するのが好ましいが膨大な費用がかかることから、支部単位に配送する事となっている。

支部の会合が定期的に開催され、その直前に「愛板」が支部長さんに届けば早く組合員に届くことになるが、会合後に届けば次回の会合の時となり、どうしても遅くなり申し込みも、時として期日を過ぎてしまう事となる。

知りたい情報、気になる情報を一日も早くお知らせすることが機関紙「愛板」の使命だと思う。

鷲見

九月二十七日(金)曇
三七六号　編集委員会
広報委員　九名出席
午後五時三十分終了